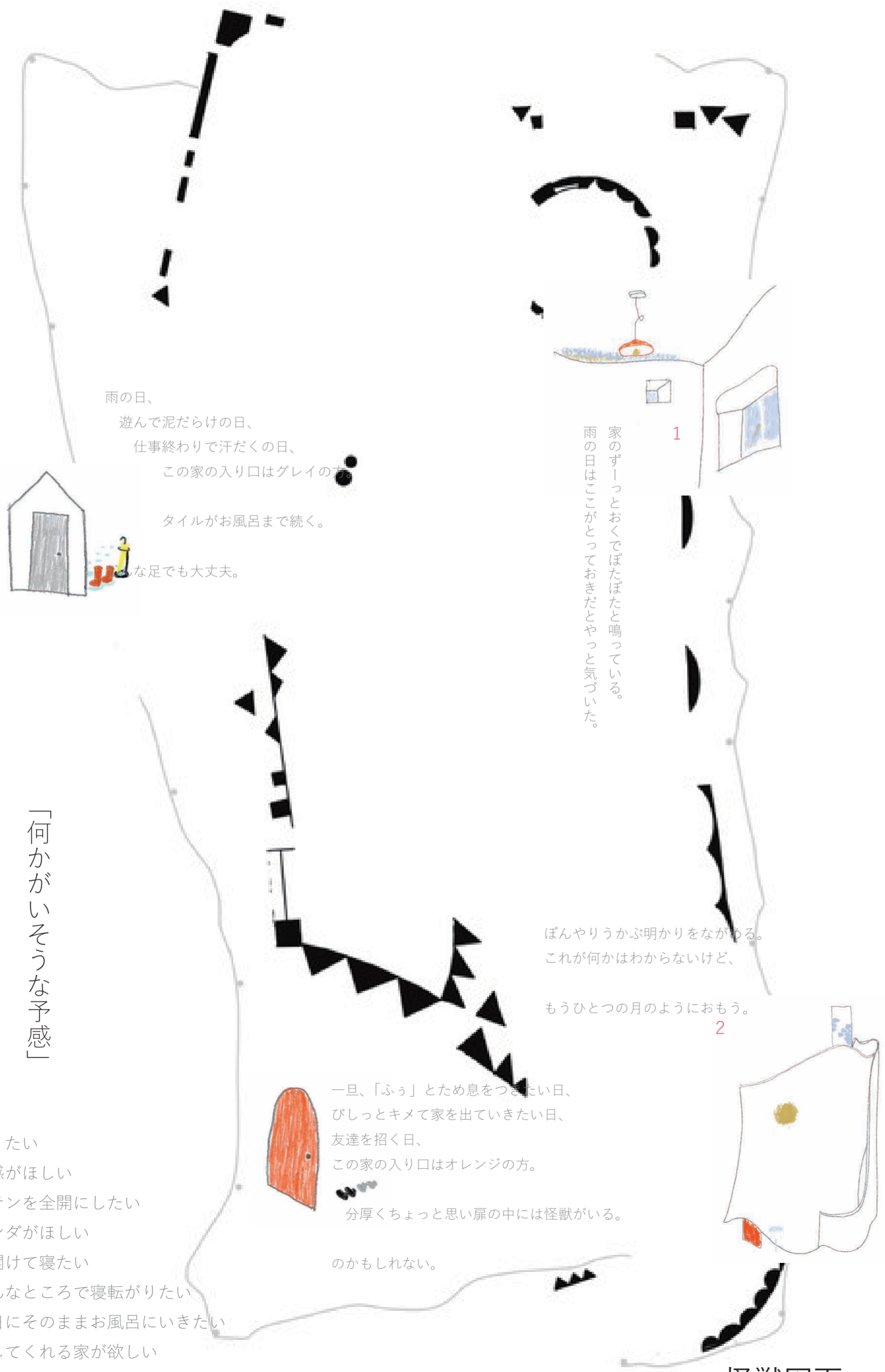
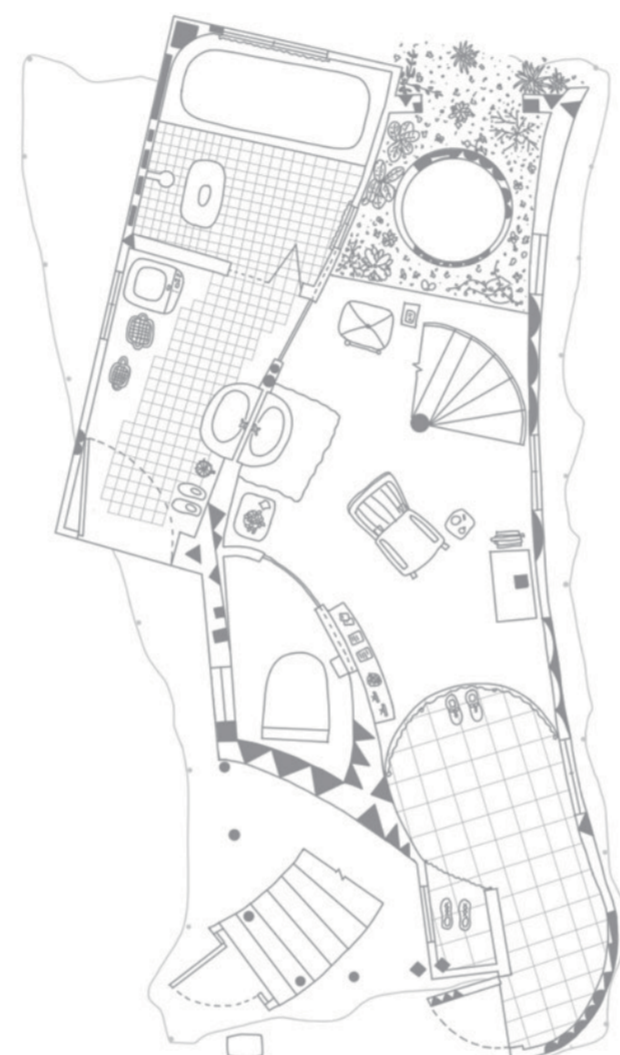
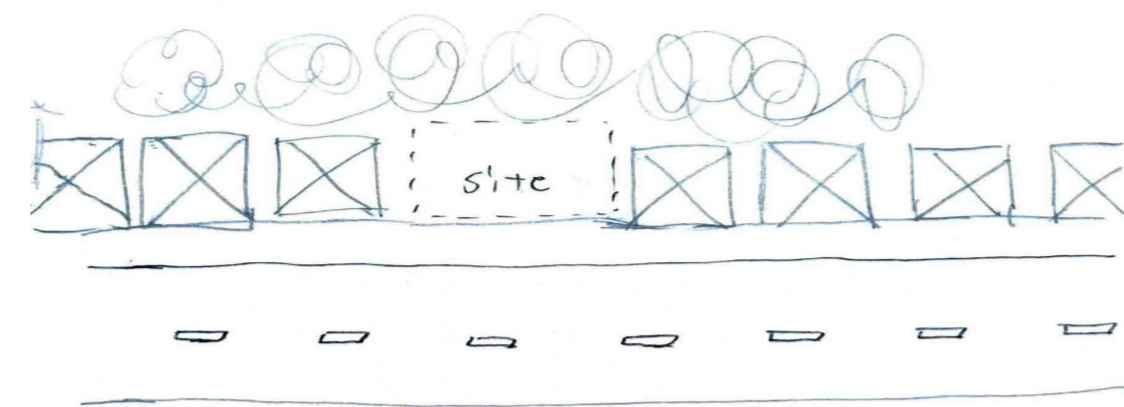
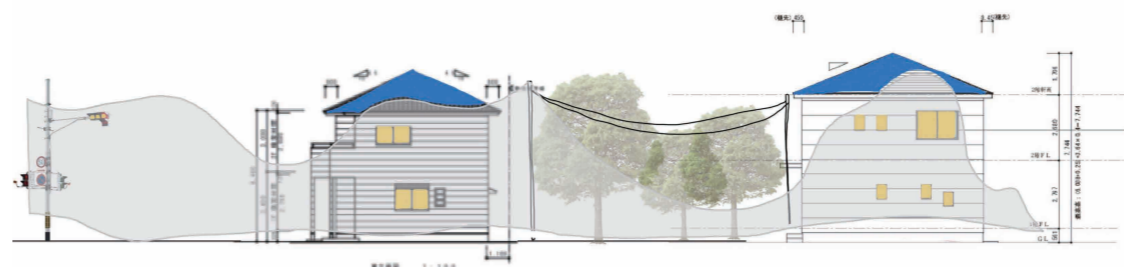


おばけと怪獣の家

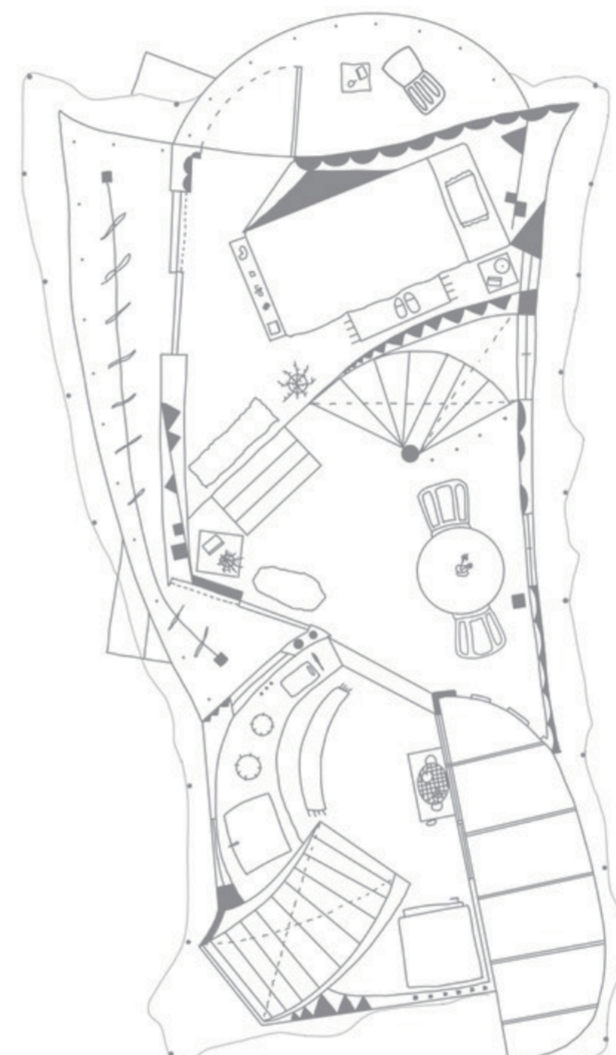
ほっと、ひといきできるところ。でも一人じゃ寂しくて、なんとなくしに誰かと話したくなる時もある。



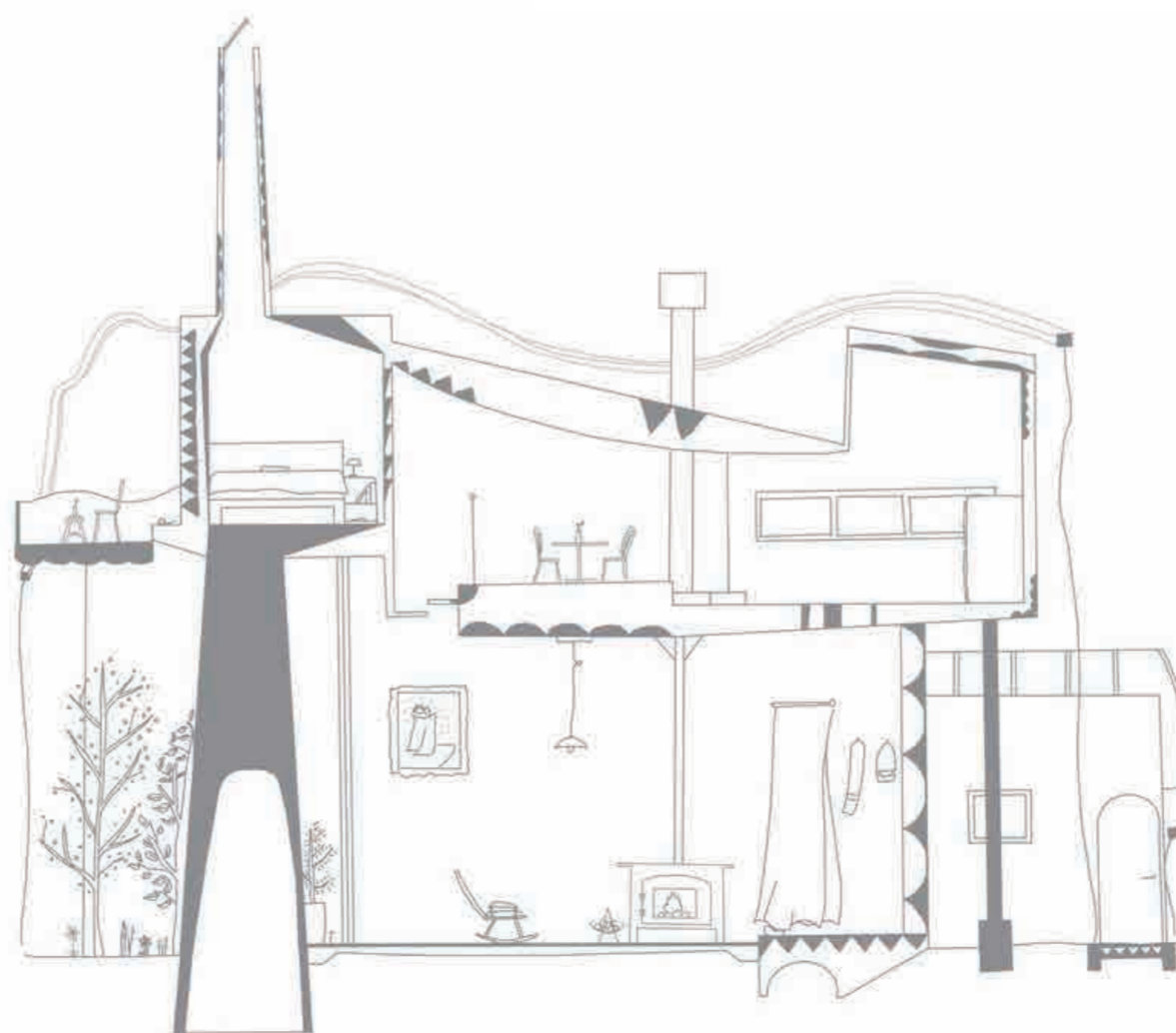
怪獣図面



1F



2F



断面図 1:50

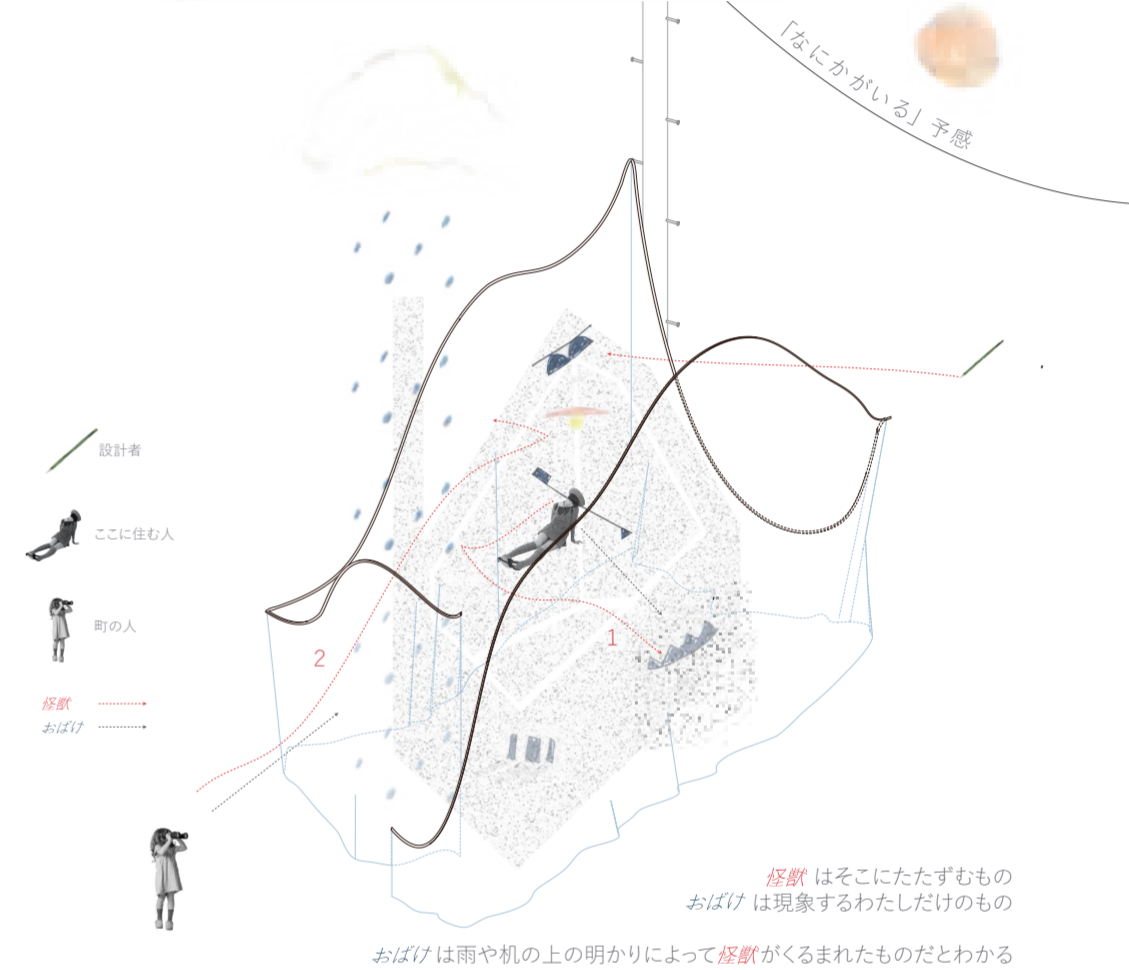


おばけ : 実体がなく、どう捉えるかはその人による



怪獣 : 質量と実体があって捉えられるもの

怪獣の進化過程



捉えきれないこと / わからないこと

空間の大きさでも形でもなく、質を捉えたい、新たな身体感覚の種を見つけたい

きっとそれは目に見えるものではなく、

その空間が建ち上がって初めて捉えられるもの

それをつくるのが建物の内部に潜む怪獣

それは目に見えなくて、五感で少しずつ捉えていくもの

図面でしか分からない厚みが生活する中でなんとなくわかっていくこと

それは知らないことだらけの人が友達になっていくことと似ている ➡ 他者との対話

家を通して対話している

覆うもの

外から見た人には機能の形がわからない

それも認識の選択肢を増やすこと

機能 = 機械 = 形が決まること

他者との距離感

都市における家のパーソナルスペースは近すぎる